

HONJO-WASEDA NO MORI MUSEUM

本庄早稲田の杜ミュージアム

年報 令和2年度・令和3年度

目次

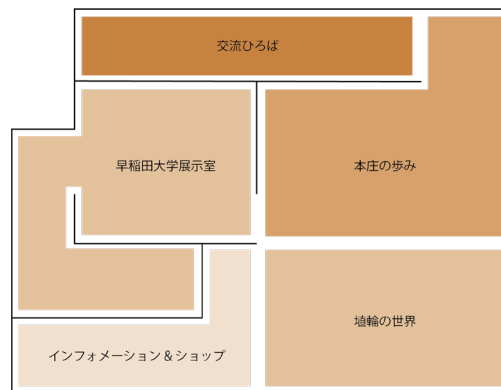
1	施設概要	
I	施設	
1	施設	3
2	沿革	3
3	組織	3
II	本庄早稲田の杜ミュージアムがめざす姿	4
III	利用案内	5
2	事業概要	
I	開館日数・入館者数	
1	開館日数	7
2	入館者数	7
3	団体見学	7
II	展示	
1	本庄市展示室	8
2	早稲田大学展示室	9
3	企画展	12
4	ミニ企画展	14
5	旧本庄商業銀行煉瓦倉庫展示スペース	17
III	教育普及	
1	ワークショップ	18
2	フィールドワーク	23
3	講座・講演会	24
IV	博学連携事業	
1	博学連携事業	31
2	早稲田大学本庄高等学院との連携事業	32
V	その他の事業	
1	開館記念事業	33
2	来館者1万人達成記念事業	33
3	開館1周年記念事業	33
VI	資料活用	
1	館外特別利用	34
2	特別利用	34
VII	資料収集	
1	新収蔵資料	34
VIII	情報発信・広報等	
1	情報発信・広報	35
2	刊行物	35
3	ミュージアムショップ	35
IX	本庄早稲田の杜ミュージアム運営委員会	
1	運営委員会委員	36
2	運営委員会	36

1 施設概要

施設

1 施設

- 1 | 名称 本庄早稲田の杜ミュージアム 英表記 HONJO-WASEDA NO MORI MUSEUM
- 2 | 所在地 埼玉県本庄市西富田 1011 番地
- 3 | 開館年月日 令和 2 (2020) 年 10 月 15 日
- 4 | 施設概要 本庄早稲田の杜ミュージアムは、早稲田大学本庄キャンパス内にある早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター（早稲田大学 93 号館）1 階に開設しました。本庄市と早稲田大学は、当館のある大久保山、浅見山丘陵の恵まれた自然環境と多様な遺跡や文化財に囲まれた一帯を「本庄早稲田文化の杜」とし、地域文化の拠点として位置付けています。当館はその中核施設として、本庄の歴史と文化の魅力を発信するとともに、地域の歴史をグローバルな視点でとらえる展示を行っています。



展示室面積	530.00㎡
本庄市展示室	405.00㎡
(インフォメーション&ショップ・埴輪の世界・本庄の歩み・交流ひろば)	
早稲田大学展示室	125.00㎡
その他面積	94.94㎡
合計	624.94㎡

2 沿革

- 平成 17 (2005) 年 5 月 本庄市と早稲田大学は「早稲田大学と本庄市との協働連携に関する基本協定書」を締結
- 令和元 (2019) 年 7 月 本庄市と早稲田大学は「本庄早稲田の杜ミュージアムに関する基本契約書」を締結
- 令和元 (2019) 年 12 月 「本庄早稲田の杜ミュージアムの設置及び管理に関する条例」が本庄市議会で可決し、開館日が令和 2 年 5 月 15 日に決定
- 令和 2 (2020) 年 5 月 本庄市議会において開館延期を決定
- 令和 2 (2020) 年 9 月 開館日が令和 2 年 10 月 15 日に決定
- 令和 2 (2020) 年 10 月 開館(10 月 15 日)



3 組織

1 | 運営体制



2 | 名誉館長

渡邊 義浩 (早稲田大学理事・文学学術院教授)

3 | 職員

令和 2 年度 (※) 学芸員

館長 佐々木 智恵

本庄早稲田の杜ミュージアム係 係長 山田 修

主査 松橋 由希 (※)

専門員 松本 完（※）

専門員 太田 博之（※）

会計年度任用職員 的野 美佐子

会計年度任用職員 森下 美幸

令和3年度 （※）学芸員

館長 佐々木 智恵

本庄早稲田の杜ミュージアム係 係長 山田 修

主査 松橋 由希（※）

専門員 太田 博之（※）

会計年度任用職員 松本 完（※）

会計年度任用職員 的野 美佐子（※）

会計年度任用職員 森下 美幸

II 本庄早稲田の杜ミュージアムのめざす姿

本庄早稲田の杜ミュージアムのめざす姿

- 本庄市と早稲田大学が所蔵する考古資料等を活用した展示その他の教育普及活動を通じて、来館者が本庄市の歴史に親しみ、学ぶための拠点とする
- 周辺の文化財施設や学校、その他関連団体等との連携を図り、地域文化の中核施設としての役割を果たす

本庄早稲田の杜ミュージアムの取り組み

- 1 市民共有の財産である考古資料等の調査、研究を行い、展示・教育・出版活動を通じて、市民の誰もが本庄市の長い歴史を身近に感じられる場とする
- 2 学校教育と連携を図り、学習目的に対応した見学・体験プログラムを提供することで、児童・生徒の歴史学習の拠点となる
- 3 子どもたちの知的好奇心を喚起し、郷土学習をはじめ、何かを学ぶことや深く知ることの面白さを体感できる環境を創出する
- 4 実際に見て、触れることができる実物資料を活用した学習環境をつくるほか、多彩な体験学習の機会を設け、体感的な歴史学習を推進する
- 5 幅広い利用者に対応し、障害のある方や乳幼児連れの家族でも気兼ねなく過ごせる環境づくりを行う
- 6 前山1号墳や宍勝寺裏埴輪窯跡など貴重な遺跡が所在する恵まれた立地環境を生かし、大久保山・浅見山丘陵全体を博物館として活用する
- 7 生涯学習や文化推進の拠点施設として、資料の公開のみならず、情報発信力の高い施設づくりを行う
- 8 本庄市と早稲田大学が所蔵する資料を積極的に公開し、研究者や市民の主体的な調査研究をサポートする
- 9 本庄市と早稲田大学が協働し、先端的な調査、研究を推進するとともに、研究者や研究団体の活動に協力し、その成果を展示、学習の場に生かす

Ⅲ 利用案内

名称	本庄早稲田の杜ミュージアム 英語表記 HONJO-WASEDA NO MORI MUSEUM
所在地	埼玉県本庄市西富田 1011 番地
開館時間	午前9時～午後4時30分
休館日	月曜日（休日の場合は翌日）・年末年始（12月28日～1月3日）
入館料	無料
交通	新幹線 JR 上越・北陸新幹線 本庄早稲田駅南口から徒歩3分 電車 JR 高崎線 本庄駅南口からはにぼんシャトル（所要時間13分）バス停「本庄早稲田駅北口」 下車 徒歩5分 または 本庄駅南口からタクシー10分 自動車 関越自動車道 本庄児玉からICから5分 無料駐車場あり



2 事業概要

1 開館日数・入館者数

1 開館日数

令和2年度	138日
令和3年度	306日
累計	444日

2 入館者数

令和2年度	9,771名
令和3年度	17,402名
累計	27,173名

3 団体見学

令和2年度

種別			団体数		人数	
				うち市内		うち市内
学校団体	小学校	3年生	3団体	3団体	196名	196名
		4年生	2団体	2団体	81名	81名
		5年生	1団体	1団体	102名	102名
	高校・大学	2団体	1団体	12名	4名	
生涯学習団体等			19団体	15団体	363名	327名
その他			6団体	5団体	129名	113名
合計			33団体	27団体	883名	823名

令和3年度

種別			団体数		人数	
				うち市内		うち市内
学校団体	小学校	3年生	8団体	8団体	445名	445名
		4年生	3団体	3団体	87名	87名
		5年生	5団体	4団体	342名	311名
		6年生	3団体	2団体	216名	96名
	中学校	1団体	0団体	4名	0名	
	大学	1団体	0団体	7名	0名	
生涯学習団体等			10団体	7団体	255名	186名
その他			3団体	2団体	64名	44名
合計			34団体	26団体	1,420名	1,169名

II 展示

1 本庄市展示室

(1) 埴輪の世界

1 | 概要

本庄市のマスコット「はにぼん」のモデルとなった前の山古墳出土の盾持人物埴輪や埼玉県指定史跡である宍勝寺裏埴輪窯跡出土の鞍形埴輪など大型で造形的にも優れた形象埴輪を中心に、市内出土の形象埴輪を展示の中心に据え、あわせて壺形埴輪や朝鮮半島系の土器製作技法で製作された円筒埴輪など他の地域では見られない資料を展示し、市内出土埴輪の特徴を明示しています。令和3年度には、全国的にも希少な弓形埴輪（東五十子古墳群 29号墳出土）を復元し、令和4年1月29日から一般公開しました。

2 | 展示構成と主な展示資料

埴輪サークル	展示点数	22点
盾持人物埴輪ほか	展示点数	17点



(2) 本庄の歩み

1 | 概要

各時代を代表する資料を市所蔵の資料のみならず、早稲田大学所蔵の資料と組み合わせることで、旧石器時代から中・近世までの地域の歴史を、考古資料を通じて解説しています。また、年表や映像コンテンツを活用することで、地域の歴史をよりわかりやすく紹介しています。令和3年度には、館内で放映している映像コンテンツに手話通訳を追加し、ろう者の鑑賞環境を改善するとともに、障害の有無に関わらず、来館者が鑑賞しやすい環境整備を推進しました。

2 | 展示構成と主な展示資料

旧石器時代	ナイフ形石器ほか	展示点数	34点
縄文時代	縄文土器ほか	展示点数	95点
弥生時代	弥生土器ほか	展示点数	14点
古墳時代	土師器ほか	展示点数	104点
飛鳥時代	ガラス小玉鑄型ほか	展示点数	14点
奈良時代	宝亀二年銘木簡ほか	展示点数	10点
平安時代	石製紡錘車ほか	展示点数	8点
鎌倉時代	複弁蓮華文軒丸瓦ほか	展示点数	9点
戦国時代	かわらけほか	展示点数	32点

本庄の歩み（年表・地図）

本庄の歴史（映像）

考古資料からみる本庄（映像）

関連資料	武蔵国分寺跡出土単弁蓮華文軒丸瓦ほか	展示点数	11点
	アル＝フスタート遺跡出土白磁碗ほか	展示点数	24点



2 早稲田大学展示室

タイトル	会期	開館日数	来場者数
オセアニア民族造形美術品展 - セピック川流域の精霊と文化 -	令和2年10月15日(木曜日) ～令和3年1月11日(月曜日/祝日)	71日	7,224名
世界をつなぐやきもの - 陶磁器、遙かなる旅路。	令和3年1月26日(火曜日) ～8月29日(日曜日)	181日	6,347名
本庄早稲田の杜ミュージアム開館1周年記念 大隈重信と渋沢栄一展	令和3年9月11日(土曜日) ～11月14日(日曜日)	56日	6,811名
山内清男コレクション受贈記念 山内清男の考古学	令和3年12月7日(火曜日) ～令和4年5月29日(日曜日)	93日*	3,631名*

※令和4年3月31日現在

(1) オセアニア民族造形美術品展 - セピック川流域の精霊と文化 -

1 | 概要

早稲田大学が所蔵するオセアニア民族造形美術品は、今泉隆平氏が収集した資料で、2010年度に鶴ヶ島市から早稲田大学に寄贈されたものです。資料はセピック川流域からパプアニューギニア北東部の資料が中心となっており、中でもセピック川流域の資料が最も多く、彫像類や仮面を中心に、柱などの建築材、楯や槍などの武具、土器や木器といった日用品、楽器など多岐に及びます。企画展では、精霊の家を彩る装飾品とそこで使用される仮面や彫像を中心に展示し、表情豊かな精霊の姿を通じて、パプアニューギニアの精神世界や自然豊かな暮らしと文化を紹介しました。



2 | 会期

令和2年10月15日(木曜日)～令和3年1月11日(月曜日/祝日)
休館日 月曜日(休日の場合は翌日)

3 | 展示構成と主な展示資料

オセアニア民族造形美術品 展示点数 116点

4 | 会期中の入館者数 7,224名

(2) 世界をつなぐやきもの - 陶磁器、遙かなる旅路。

1 | 概要

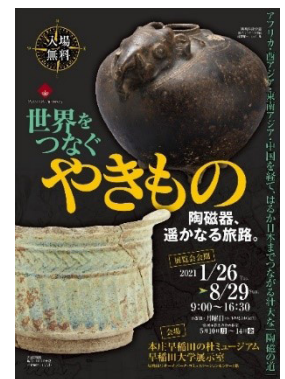
早稲田大学は1978年から1985年にかけて、エジプトのアル=フスタート遺跡で発掘調査を実施し、出土品の一部が大学に所蔵されています。この遺跡からは龍泉窯や景德鎮窯など、中国でつくられた陶磁器が大量に出土しており、中国からはるか北アフリカまでを結んだ東西交易海路の存在を物語っています。企画展では、アル=フスタート遺跡から出土した陶磁器に、早稲田大学會津八一記念博物館が所蔵する陶磁器類のコレクションを交えて、アフリカ・西アジア・東南アジア・中国を経てはるか日本までつながる壮大な「陶磁の道」を辿ることで、やきものを通じて世界がつながる様子を紹介しました。

2 | 会期

令和3年1月26日(火曜日)～8月29日(日曜日)
休館日 月曜日(休日の場合は翌日)

※一部展示替えのため5月11日(火曜日)～14日(金曜日)は休室

3 | 展示構成と主な展示資料



○會津八一記念博物館開催巡回展示

展示点数 38 点 (内、パネル展示 9 点)

※一部は本庄市展示室 (早稲田大学展示スペース) において既展示

展示構成 北アフリカ (エジプト)、西アジア、東南アジア (カンボジア、ベトナム、タイ・ミャンマー)、東アジア (中国) により構成

○早稲田大学考古資料館所蔵：エジプトイスラム都市アル=フスタート遺跡

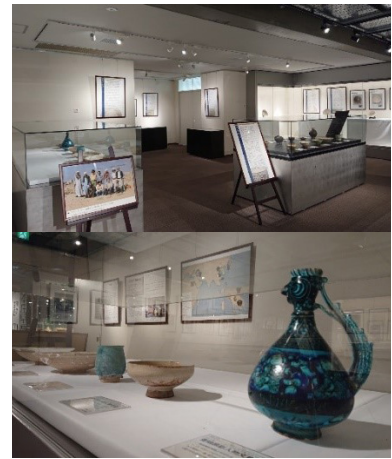
中国陶磁器片 展示点数 203 点

イスラム陶磁器片 展示点数 107 点

○本庄市及び近隣町からの出土品

陶磁器片 展示点数 98 点

4 | 会期中の入館者数 6,347 名



(3) 本庄早稲田の杜ミュージアム開館 1 周年記念 大隈重信と渋沢栄一展

1 | 概要

政治家であり、早稲田大学創設者でもある大隈重信は 2022 年 1 月に没後 100 年を迎えます。また、実業界を牽引するとともに広い分野で活躍し、2021 年 11 月に没後 90 年を迎える渋沢栄一は、2024 年に刷新される新 1 万円札の肖像に採用され、NHK 大河ドラマでも取り上げられるなど注目の人物です。企画展では、早稲田大学図書館が所蔵する『大隈文書』と大学史資料センターの『大隈関係文書』の翻刻の成果を基に、大学が所蔵する『大隈文書』のうち渋沢栄一書簡を一堂に会し、両者の交流資料のほか、交流があった明治維新の志士らの書や錦絵、写真資料をはじめ、関係団体が所蔵する貴重な資料を展示し、大隈重信と渋沢栄一の出会いと交流、その歩みを通じて、教育者、起業家育成者としての視点からその事績を紹介しました。



2 | 会期

令和 3 年 9 月 11 日 (土曜日) ~ 11 月 14 日 (日曜日)

前期展示 9 月 11 日 (土曜日) ~ 10 月 10 日 (日曜日)

後期展示 10 月 12 日 (火曜日) ~ 11 月 14 日 (日曜日)

休館日 月曜日 (休日の場合は翌日)

3 | 展示構成と主な展示資料

①幕末の動揺と明治維新の志士達の意志、明治政府の施策

桜田実地写真之図 (早稲田大学図書館所蔵)、徳川興山公一行書 (早稲田大学図書館所蔵)、大隈候義足 (大学史資料センター所蔵) ほか

展示点数 19 点

②大隈重信と渋沢栄一 出会いから別れまで

渋沢栄一書翰大隈重信宛 (早稲田大学図書館所蔵)、尾高 惇忠書「富岡製糸場落成詩」(渋沢栄一記念館所蔵) ほか 展示点数 41 点

③大隈重信・渋沢栄一と女子教育

女子教育奨励会書翰大隈重信宛 (早稲田大学図書館所蔵) ほか

展示点数 7 点

④教育・文化・社会貢献

『群書類従』((公社)温故学会所蔵)、渋沢栄一額装書 ((公社)温故学会、本庄市立藤田小学校、浄土宗實相寺所蔵)、青い目の人形 (本庄市立本庄西小学校、本庄市立藤田小学校所蔵) ほか 展示点数 23 点

4 | 会期中の入館者数 6,811 名



(4) 山内清男コレクション受贈記念 山内清男の考古学

1 | 概要

山内清男博士は、「日本先史考古学の父」として知られ、先史考古学の方法論を確立するとともに、縄文時代研究を科学的に体系化し、日本の考古学界に大きな足跡を残した人物です。早稲田大学會津八一記念博物館では、2017年度に博士のご遺族から、博士の旧蔵資料を一括して寄贈を受けました。今回の企画展では、博士の研究の歩みを語るうえで重要な資料であり、研究を支えた基礎資料でありながら、今まで一般に公開されたことがなかった多数の研究メモ、原稿や草稿、紙焼き写真などから現在までに整理を終えた資料を中心に公開し、博士が考古学と共に歩んだ足跡を、資料に沿って紹介しています。



2 | 会期

令和3年12月7日(火曜日)～令和4年5月29日(日曜日)

休館日 月曜日(休日の場合は翌日)

3 | 展示構成と主な展示資料

第1章 一寸ノ竜 「多摩川向ふへ」原稿ほか

第2章 竜驥麟振 金関丈夫 山内宛書簡ほか

第3章 伏竜鳳雛 「石器時代の犬小屋」原稿ほか

第4章 飛竜乗雲 「縄文式文化について」の講演原稿ほか

第5章 画竜点睛 興津式土器ほか 展示点数 約100点

4 | 会期中の入館者数(令和4年3月31日現在) 3,631名



3 企画展

タイトル	会期	開館日数	来場者数
第1回本庄早稲田の杜地域連携展覧会「室町・戦国期の児玉・深谷地域」	令和2年10月15日(木曜日) ～12月20日(日曜日)	58日	6,563名
第2回本庄早稲田の杜地域連携展覧会「旧石器・縄文時代の児玉・深谷地域」	令和4年1月4日(火曜日) ～3月27日(日曜日)	72日	2,660名

(1) 第1回本庄早稲田の杜地域連携展覧会「室町・戦国期の児玉・深谷地域」

1 | 概要

室町時代から戦国時代にかけての児玉・深谷地域には、鎌倉時代の御家人の流れをくむ有力国人層の館跡が数多く分布しています。また、1454年に起きた享徳の乱では、関東管領上杉氏がこの地に本営を置き、多くの城砦遺構が残されています。これらの遺跡からは、青磁・白磁などの輸入磁器、宴会用の「かわらけ」など非日常の陶磁器のほか、播鉢・土鍋・火鉢・硯といった生活雑器の類も豊富に出土しています。今回の本庄早稲田の杜地域連携展覧会では、史料に表れない当時の人々の具体的な活動のあり様を近年の発掘調査によって出土した考古資料を通じて紹介しました。

2 | 主催

本庄市・美里町・神川町・上里町・深谷市・早稲田大学

3 | 会期

令和2年10月15日(木曜日)～12月20日(日曜日)

休館日 月曜日(休日の場合は翌日)

4 | 会場

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター2F 情報資料室

5 | 展示構成と主な展示資料

本庄市 五十子陣跡出土資料

美里町 新倉館跡出土資料

神川町 阿保氏館跡、皂樹原・檜下遺跡出土資料

上里町 堂裏遺跡、長浜城址出土資料

深谷市 深谷城跡、熊野遺跡出土資料

早稲田大学 下戸塚遺跡、下柳沢遺跡(校地内遺跡)出土資料

展示点数 116点

6 | 会期中の入館者数 6,563名



(2) 第2回本庄早稲田の杜地域連携展覧会「旧石器・縄文時代の児玉・深谷地域」

1 | 概要

児玉・深谷地域では、丘陵部を中心に、旧石器時代から人々の暮らしが始まりました。旧石器時代から縄文時代草創期・早期にかけては、人々の暮らしの跡は、遺跡に残されたわずかな石器や土器におおむね限られますが、児玉・深谷地域のほぼ全域にわたって、様々な時期、段階の遺物がみられます。縄文時代前期以降になると、主に丘陵部に堅穴住居が営まれるようになり、ムラと呼んでよい堅穴住居のまとまりが形造られるようになります。この豊富な森林資源や河川をめぐる多様な資源を背景とする定住化と集住化の傾向は、縄文時代中期に、大規模なムラの出現として最盛期を迎えました。縄文時代後・晩期には、遺跡の数は減少しますが、湧水や池沼の周辺、低地に遺跡がみられるようになり、新たな環境が切り開かれつつある様子がうかがわれます。ま



た、土偶や土製の装身具、石棒や石剣などの祭祀具などに、精巧な作りの製品がみられるようになります。今回の本庄早稲田の杜地域連携展覧会では、主に発掘調査によって出土した資料を出品し、児玉・深谷地域における旧石器・縄文時代の人々の生活と文化を紹介しました。

2 | 主催

本庄市・美里町・神川町・上里町・深谷市・早稲田大学

3 | 会期

令和4年1月4日（火曜日）～3月27日（日曜日）

休館日 月曜日（休日の場合は翌日）

4 | 会場

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター 2 F 情報資料室

5 | 展示構成と主な展示資料

本庄市 新宮遺跡出土資料

美里町 登戸遺跡、北貝戸遺跡、南志渡川遺跡、羽黒山遺跡出土資料

神川町 十二ヶ谷戸 17 号墳、下久保コテージ跡、平遺跡、池田遺跡、
皂樹原遺跡出土資料

上里町 本郷下遺跡、窪前遺跡、田通遺跡出土資料

深谷市 上本田遺跡、上敷免北遺跡、宮ヶ谷戸遺跡、明戸東遺跡、
橋屋遺跡出土資料

早稲田大学 大久保山遺跡出土資料

展示点数 190 点

6 | 会期中の入館者数 2,660 名



4 ミニ企画展

タイトル	会期	開館日数	来場者数
本庄市の遺跡 令和2年度最新出土品展	令和3年1月5日(火曜日) ～2月28日(日曜日)	48日	1,754名
これでキミも考古学者!	令和3年7月20日(火曜日) ～9月20日(月曜日/祝日)	54日	3,008名
ミュージアム周辺の古墳	令和3年10月12日(火曜日) ～12月26日(日曜日)	66日	6,168名
本庄市の遺跡 令和3年度最新出土品展	令和4年1月12日(水曜日) ～2月27日(日曜日)	41日	1,430名

(1) 本庄市の遺跡 令和2年度最新出土品展

1 | 概要

本市には500箇所を超える埋蔵文化財包蔵地が所在し、毎年発掘調査が行われています。発掘調査は、学術目的のほか、開発に伴い消滅してしまう遺跡を写真や図面に記録し保存しておくために実施されるもので、本市の歴史を語るうえで欠くことのできない貴重な資料が発見されています。平成30年度から文化財整理室文化財展示コーナーで開催してきた最新出土品展ですが、今回から本庄早稲田の杜ミュージアムを加えた2会場で、巡回展示としました。最新出土品展は、発掘調査出土品及び関連資料を公開することで、郷土の歴史に対する関心を高めるとともに、市民の埋蔵文化財保護への理解を推進しようとするものです。今回は、令和2年度に発掘調査をおこなった児玉町蛭川の辻堂遺跡F地点から出土した土器、石製品を中心に、令和元年度に発掘調査を行った宇留井山遺跡及び元富東古墳石室出土の炭化材等の自然科学分析結果などを展示しました。



2 | 会期

令和3年1月5日(火曜日)～2月28日(日曜日)
休館日 月曜日(休日の場合は翌日)

3 | 会場

交流ひろば

4 | 巡回展

会期 令和3年3月2日(火曜日)～3月26日(金曜日)
会場 文化財整理室文化財展示コーナー

5 | 展示構成と主な展示資料

- 辻堂遺跡F地点出土資料 展示点数 16点
甕形土器・高坏形土器・台付鉢形土器・埴形土器・埴形土器・ミニチュア形土器・白玉
- 元富東古墳出土資料 展示点数 3点
木材・鷲目留金具
- 秋山古墳群塚原地区C地点出土資料 展示点数 23点
弥生土器片



6 | 会期中の入館者数 1,754名

(2) これでキミも考古学者!

1 | 概要

私たちが暮らす地面の下には、昔の人が建てた家の跡や使っていた道具などが残されています。本市でも毎年発掘調査が行われていますが、発掘調査や考古学というと難解なイメージが先行してしまい身近に感じてもらえないところがあります。ミニ企画展では、考古学って何？発掘調査って何をするの？といった疑問に答えながら、考古学で何がわかるのかを分かりやすく解説することで、考古学や発掘調査に対する関心を高めるとともに、市民の埋蔵文化財保護への理解を推進する機会とするものです。夏休み期間であることから、小学生をターゲットとし、来館のきっかけづくりとするほか、郷土学習や歴史学習への関心を喚起するとともに郷土愛醸成の一助となるよう子ども向けの展示としました。

2 | 会期

令和3年7月20日（火曜日）～9月20日（月曜日／祝日）

休館日 月曜日（休日の場合は翌日）・7月25日

3 | 会場

交流ひろば

4 | 展示構成と主な展示資料

- ①考古学ってなに？ 教科書、解説パネル 展示点数 4点
- ②そもそも土の中に遺跡があるのはなぜ？ 解説パネル 展示点数 1点
- ③考古学でなにがわかるの？ 縄文土器（深鉢）、弥生土器（甕）、土師器（甕）、解説パネル 展示点数 5点
- ④発掘調査ってなに？ 解説パネル 展示点数 1点
- ⑤発掘調査ってどんなことをしているの？ 発掘調査で使う道具、解説パネル 展示点数 32点
- ⑥発掘調査が終わったらどうするの？ 整理作業で使う道具、土師器、実測図、解説パネル 展示点数 43点



5 | 会期中のミュージアム入館者数 3,008名

(3) ミュージアム周辺の古墳

1 | 概要

ミュージアムが所在する浅見山丘陵とその周辺には、古墳時代の全期間を通して古墳が築かれていました。古墳時代前・中期（4世紀から5世紀）には、墳丘長70mを超える前方後円墳である北堀前山1号墳や直径60m級の大型円墳である公卿塚古墳・金鑽神社古墳など児玉地域を代表する有力な首長墓が築かれました。また、古墳時代後期から終末期（6世紀から7世紀）にかけては、横穴式石室をもつ円墳が数多く造られ、宥勝寺裏埴輪窯跡では埴輪の生産も行われていました。ミニ企画展では、これまでの発掘調査によって出土した資料を展示し、ミュージアム周辺の古墳を紹介しました。

2 | 会期

令和3年10月12日（火曜日）～12月26日（日曜日）

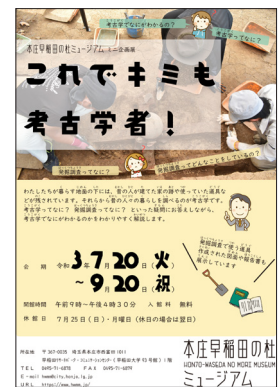
休館日 月曜日

3 | 会場

交流ひろば

4 | 展示構成と主な展示資料

- 公卿塚古墳出土資料
円筒埴輪片、盾形埴輪片、柵形埴輪片、土師器（杯） 展示点数 20点
- 元富東古墳出土資料
直刀、鷓目金具、鍔、釧、貴金具、鉄鏃、弓飾金具、耳環、刀子



展示点数 21 点

- 宍勝寺北裏遺跡 1 号周溝墓出土資料 土師器（埴・壺） 展示点数 2 点
- 宍勝寺裏埴輪窯跡出土資料 翳形埴輪、大刀形埴輪、人物埴輪、馬形埴輪 展示点数 13 点
- 浅見山 I 遺跡 3 号周溝墓出土資料 碧玉製管玉、土師器（壺） 展示点数 2 点
- 浅見山 I 遺跡 8 号周溝墓出土資料 土師器（鉢・台付甕・高杯・壺） 展示点数 5 点
- 浅見山 I 遺跡 2 号埴出土資料 円筒埴輪 展示点数 4 点
- 金鑽神社古埴出土資料 円筒埴輪、円筒埴輪片、朝顔形埴輪片 展示点数 12 点
- 生野山将軍塚古埴出土資料 円筒埴輪片 展示点数 3 点

5 | 会期中の入館者数 6,168 名

(4) 本庄市の遺跡 令和 3 年度最新出土品展

1 | 概要

本市には 500 箇所を超える埋蔵文化財包蔵地が所在し、毎年発掘調査が行われています。発掘調査は、学術目的のほか、開発に伴い消滅してしまう遺跡を写真や図面に記録し保存しておくために実施されるもので、本市の歴史を語るうえで欠くことのできない貴重な資料が発見されています。最新出土品展は、発掘調査出土品及び関連資料を公開することで、郷土の歴史に対する関心を高めるとともに、市民の埋蔵文化財保護への理解を推進しようとするものです。今回は、令和 3 年度に発掘調査を行った小島 4 丁目の旭・小島古墳群元屋敷 4 号埴周溝内出土の土師器と児玉町金屋の高柳原遺跡 D 地点から出土した土器、石製品を中心に、今年度発掘調査報告書を発行する羽根倉南遺跡出土の土器棺墓などを展示しました。

2 | 会期

令和 4 年 1 月 12 日（水曜日）～ 2 月 27 日（日曜日）

休館日 月曜日

3 | 会場

交流ひろば

4 | 巡回展

会期 令和 4 年 3 月 1 日（火曜日）～ 3 月 25 日（金曜日）

会場 文化財整理室文化財展示コーナー

5 | 展示構成と主な展示資料

- 旭・小島古墳群元屋敷 4 号埴出土資料 展示点数 8 点
土師器（埴形土器・壺形土器）、円筒埴輪片、写真パネルほか
- 高柳原遺跡 D 地点出土資料 展示点数 9 点
弥生土器（甕形土器・台付甕形土器）、弥生土器又は土師器（壺形土器
転用鉢）、翡翠製勾玉、土師器（小型壺形土器）、土製紡錘車、写真パ
ネルほか
- 羽根倉南遺跡出土資料 展示点数 5 点
土師器（壺形土器転用棺）、写真パネルほか

6 | 会期中の入館者数 1,430 名



5 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫展示スペース

1 | 概要

旧本庄商業銀行煉瓦倉庫は、1896（明治29）年に株式会社本庄商業銀行が資金供給の担保となった大量の繭を収容するために建設した倉庫です。中山道沿いの市街地に残る明治期の建物と併せて、中山道の宿場として繁栄した近世の本庄宿の姿と繭の集散地として賑わった近代の本庄町の姿を、実物資料と写真・解説パネルで紹介しています。

2 | 展示構成と主な展示資料

○近世の本庄宿

田村本陣休泊帳、武蔵国本庄町畑方御検地水帳、文化元年本庄宿家並図、五海道中細見記「中山道の部」（複製）、中山道分間延絵図（パネル）、正徳二年本庄宿絵図（パネル） 展示点数 7 点

○近代の本庄町

写真パネル 本庄繭市場之光景(明治40年)、本庄郵便局と諸井家住宅(明治44年)、本庄繭糸織物商組合即位記念写真(大正4年)、『本庄みやげ・本庄商工業家案内図』『埼玉県本庄町明細地図』(大正3年)、日本蚕種貯蔵会社貯蔵庫、小口組繭買入所、本庄繭市場会社、大星館製糸所陶製繰糸鍋(大星館製糸所跡出土) 展示点数 10 点



III 教育普及

1 ワークショップ

来館のきっかけづくりとするほか、展示物に対する関心を高めたり、展示物をより身近に感じてもらったりすることを目的にワークショップを開催しました。

タイトル	内 容	開催回数	参加者数
世界にひとつだけのオリジナル勾玉づくり	滑石を紙やすりで削り、勾玉をつくる	6回	494名
キッズデー - こどものためのミュージアムの日 -	子ども向け展示解説・勾玉づくり・クイズ・ぬりえ・ポストカードづくり	1回	596名
埴輪職人に挑戦！ミニ埴輪をつくろう	焼成しなくても固まる粘土を使用し埴輪をつくる	3回	71名
これでキミも考古学者！ - 考古学のお仕事体験	拓本体験・実測体験・スケッチ・土器水洗・子ども向け展示解説	1回	552名
縄文人のモノづくりに迫る！ ミニ縄文土器をつくろう	焼成しなくても固まる粘土を使用し縄文土器をつくる	1回	24名

(1) 世界にひとつだけのオリジナル勾玉づくり

1 | 概要

勾玉は、Cの字形に湾曲した形で、丸く膨らんだ一端に孔があいており、紐をとおして使用した装身具（アクセサリー）のひとつです。日本では縄文時代の遺跡から発見された例が最も古く、弥生時代、古墳時代にも作られました。材質は滑石、蠟石、ガラス、ヒスイ、メノウなど様々なものがみられます。本市でも、長沖古墳群をはじめ、複数の遺跡から発見されており、令和3年度に発掘調査を行った高柳原遺跡からはヒスイ製の勾玉が出土しました。勾玉づくりを通じて、なぜこんな形をしているのか、装身具だとなぜわかったのかなど、古代の人々の生活に関心をもってもらうきっかけづくりとするほか、製作工程を体験することで、どうやって作ったのかなど展示物に対する関心を高める機会とするものです。ワークショップでは、比較的加工しやすい「滑石」を使用し、世界にひとつだけのオリジナルの勾玉を製作しました。なお、第1回、第5回は「本庄早稲田の杜ミュージアム×埼玉県民の日」とし、埼玉県民の日を記念して開催しました。埼玉県の県章が勾玉16個を円形に並べたものであることになみ、参加者が製作した勾玉で県章を描きました。また、第4回はキッズデー-こどものためのミュージアムの日-の一事業「古代人のアクセサリーをつくろう」として開催しました。



2 | 開催日

- 第1回 令和2年11月13日（金曜日）・14日（土曜日）・15日（日曜日）
- 第2回 令和2年11月21日（土曜日）・22日（日曜日）・23日（月曜日 / 祝日）
- 第3回 令和3年3月26日（金曜日）・27日（土曜日）・28日（日曜日）
- 第4回 令和3年5月3日（月曜日 / 祝日）・4日（火曜日 / 祝日）・5日（水曜日 / 祝日）
- 第5回 令和3年11月12日（金曜日）・13日（土曜日）・14日（日曜日）
- 第6回 令和4年3月25日（金曜日）・26日（土曜日）・27日（日曜日）

3 | 会場

本庄早稲田の杜ミュージアム

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター 2階 ギャラリー

- 4 | 費用 石材により 200 円または 350 円（ミュージアムショップで材料を購入）
- 5 | 定員 第 1 回～第 3 回 1 日 3 回 各回 10 名（事前申込制・先着）
第 4 回 順次参加者を入れ替えて実施（当日受付・先着）
第 5 回・第 6 回 1 日 2 回 各回 10 名（事前申込制・先着）
- 6 | 参加者 合計 494 名
- 7 | 参加者アンケートの結果（回答数 325）

どこからお越しですか

市内 70%	市外 29%	無回答 1%
--------	--------	--------

今回のイベントをどこで知りましたか

広報 34%	口コミ 25%	館内掲示 16%	HP 12%	SNS 6%	その他 6%	無回答 1%
--------	---------	----------	--------	--------	--------	--------

イベントの満足度を教えてください

大変満足 91%	満足 9%
----------	-------

イベントがあったら、また参加したいですか

ぜひ参加したい 86%	都合があれば参加したい 13%	無回答 1%
-------------	-----------------	--------

ミュージアムのイベントに参加したことがありますか

ある 33%	ない 67%
--------	--------

ミュージアムへの来館回数

初めて 26%	2 回目 28%	3 回以上 46%
---------	----------	-----------

新型コロナウイルス感染症への対応について

十分な対策ができている 82%	必要な対策ができている 17%	無回答 1%
-----------------	-----------------	--------

(2) キッズデー - こどものためのミュージアムの日 -

1 | 概要

5 月 5 日のこどもの日を含む 5 日間をキッズデーとし、子どもたちがミュージアムを訪れ、気軽に楽しんでもらうきっかけづくりとして、未就学児でも楽しめるワークショップを開催しました。

2 | 開催プログラム（内容）

- ① こどものためのミュージアムツアー（子ども向けの展示解説）
- ② 古代人のアクセサリーをつくろう（勾玉づくり）
- ③ 本物はど～れだ？（並べられた土器等から本物を見つけるクイズ）
- ④ はにわぬりえ（埴輪のイラストの塗り絵）
- ⑤ 古墳に埴輪を並べてみよう（古墳のイラストに埴輪のスタンプを押してポストカードをつくる）

3 | 開催日

令和 3 年 5 月 1 日（土曜日）～ 5 日（水曜日／祝日）

4 | 会場

本庄早稲田の杜ミュージアム



早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター 2階 ギャラリー

- 5 | 費用 古代人のアクセサリーをつくろうのみ 200 円（ミュージアムショップで材料を購入）
- 6 | 定員 プログラムごとに順次実施（当日受付／先着順）
- 7 | 参加者 合計 596 名 ※複数プログラムへの参加あり

(3) 埴輪職人に挑戦！ミニ埴輪をつくろう

1 | 概要

埴輪は、古墳の周囲に並べられた素焼きの土製品です。古墳時代につくられ、筒の形をした円筒埴輪や人物・動物・家などをかたどった形象埴輪があります。埴輪はミュージアムのメイン展示でもあり、笑った表情を持つ盾持人物埴輪や弓形埴輪など全国的にも例の少ない希少な埴輪を展示しています。埴輪づくりを通じて、埴輪の特徴やどんなものが埴輪でつくられているのか、埴輪からどんなことがわかるかなど、古墳時代の人々の生活に関心をもってもらうきっかけづくりとするほか、製作工程を体験することで、展示物を身近に感じてもらい、どうやって作ったのかなど展示物に対する関心を高める機会とするものです。ワークショップでは、焼成しなくても固まり、家庭のオーブンで焼成できる粘土を使用し、高さ約 15cmのミニ埴輪を製作しました。なお、第 1 回は市民総合大学連携講座「おとなのための埴輪づくり」として、第 3 回は「はじめてのはにわづくり」と題して、ミュージアムで開催する埴輪づくりに初めて参加する方に限定して開催しました。



2 | 開催日

- 第 1 回 令和 3 年 6 月 4 日（金曜日）・11 日（金曜日）・18 日（金曜日）
- 第 2 回 令和 3 年 6 月 25 日（金曜日）・26 日（土曜日）・27 日（日曜日）
- 第 3 回 令和 3 年 9 月 24 日（金曜日）・25 日（土曜日）・26 日（日曜日）

3 | 会場

本庄早稲田の杜ミュージアム
早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター 2階 ギャラリー

- 4 | 費用 200 円（ミュージアムショップで材料を購入）
- 5 | 定員 第 1 回 10 名 第 2・3 回 1 日 2 回 各回 5 名（事前申込制・先着）
- 6 | 参加者 合計 71 名
- 7 | 参加者アンケートの結果（回答数 61）

どこからお越しですか



今回のイベントをどこで知りましたか



イベントの満足度を教えてください



イベントがあったら、また参加したいですか



ミュージアムのイベントに参加したことがありますか

ある 38%	ない 62%
--------	--------

ミュージアムへの来館回数

初めて 26%	2回目 26%	3回以上 48%
---------	---------	----------

新型コロナウイルス感染症への対応について

十分な対策ができている 95%

◀必要な対策ができている 5%

(4) これでキミも考古学者！ - 考古学のお仕事体験

1 | 概要

令和3年7月～9月に開催したミニ企画展「これでキミも考古学者！」の関連ワークショップとして開催しました。

2 | 開催プログラム（内容）

- ①土器の拓本をとろう（鉛筆による拓本体験）
- ②土器の実測をしよう（マコやキャリパーを使った土器の実測体験）
- ③土器の模様を描こう（土器を観察して文様を描く）
- ④土器を洗おう（土器洗い体験）
- ⑤こどものためのミュージアムツアー（子ども向けの展示解説）

3 | 開催日

令和3年7月20日（火曜日）～9月20日（月曜日／祝日） 54日間

4 | 会場

本庄早稲田の杜ミュージアム

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター 1階 エントランスロビーほか

5 | 費用 無料

6 | 定員 プログラムごとに順次実施（当日受付／先着順）

7 | 参加者 合計 552名 ※複数プログラムへの参加あり



(5) 縄文人のモノづくりに迫る！ミニ縄文土器をつくろう

1 | 概要

ミュージアムでは、令和3年12月7日から早稲田大学展示室において「山内清男の考古学」、令和4年1月4日からは本庄早稲田の杜地域連携展覧会「旧石器・縄文時代の児玉・深谷地域」を開催し、1月以降、「縄文時代」をテーマとした展示が重なりました。常設展示においても大型で躍動的な装飾をもつ新宮遺跡出土の縄文土器が人気であることから、この機会に縄文時代に着目したワークショップを開催することで、「縄文時代」への関心機運を高め、企画展への来館とワークショップへの参加の相乗効果を図ったものです。ワークショップでは、焼成しなくても固まり、家庭のオーブンで焼成できる粘土を使用し、高さ約15cmのミニ縄文土器を製作しました。



2 | 開催日

令和4年1月21日（金曜日）・22日（土曜日）・23日（日曜日）

3 | 会場

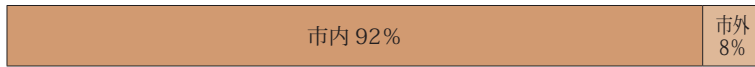
本庄早稲田の杜ミュージアム

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター 2階 ギャラリー



- 4 | 費用 200 円 (ミュージアムショップで材料を購入)
- 5 | 定員 1 日 2 回 各回 5 名 (事前申込制・先着)
- 6 | 参加者 合計 24 名
- 7 | 参加者アンケートの結果 (回答数 24)

どこからお越しですか



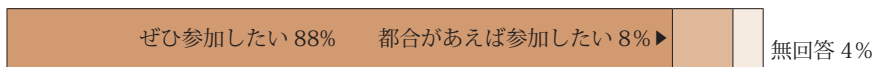
今回のイベントをどこで知りましたか



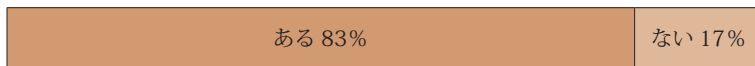
イベントの満足度を教えてください



イベントがあったら、また参加したいですか



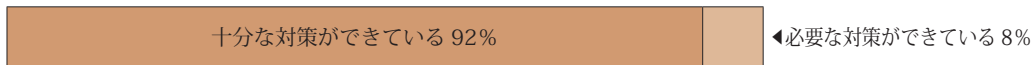
ミュージアムのイベントに参加したことがありますか



ミュージアムへの来館回数



新型コロナウイルス感染症への対応について



2 フィールドワーク

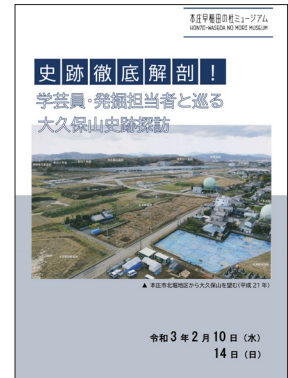
普段は見過ぎてしまっている風景の中にも歴史が息づいていることを体感し、現地でしか得られない経験を通して、地域や歴史に対する興味、関心を高めることを目的にフィールドワークを開催しました。

タイトル	開催回数	参加者数
史跡徹底解剖！学芸員・発掘担当者と巡る大久保山史跡探訪	1回	19名

(1) 史跡徹底解剖！学芸員・発掘担当者と巡る大久保山史跡探訪

1 | 概要

ミュージアムが所在する大久保山、浅見山丘陵には、多くの古墳や遺跡、寺院等が所在しており、当館を中核とした周辺一帯は、「本庄早稲田文化の杜」として本市の歴史や文化の魅力の発信拠点となっています。史跡探訪は、史跡への理解を深めるとともに、本庄の歴史を学び、その奥深さを体感することで、地域や歴史に興味をもってもらうためのきっかけづくりとするほか、当館に展示されている土器や埴輪がどのような場所から出土したのかなど展示物に対する関心を高める機会づくりとして開催しました。



2 | 開催日時

令和3年2月10日（水曜日）・14日（日曜日） 午前9時～午後0時30分

3 | 会場

本庄早稲田の杜ミュージアム及びその周辺

4 | 行程

本庄早稲田の杜ミュージアム（常設展示見学）→浅見山Ⅰ遺跡→マリーゴールドの丘公園→宥勝寺裏埴輪窯跡→西光山宥勝寺本堂・荘小太郎頼家供養塔→大久保山寺院跡→東谷古墳→大久保山遺跡→前山1号墳→本庄早稲田の杜ミュージアム

5 | 対象者 中学生以上

6 | 費用 無料

7 | 定員 各日10名（事前申込制・先着）

8 | 参加者 合計19名

9 | 参加者アンケートの結果（回答数19）

どこからお越しですか

市内 79%	市外 21%
--------	--------

今回のイベントをどこで知りましたか

広報 53%	HP 32%	口コミ 5%	その他 10%
--------	--------	--------	---------

イベントの満足度を教えてください

大変満足 84%	満足 11%	普通 5%
----------	--------	-------

イベントがあったら、また参加したいですか

ぜひ参加したい 89%	都合があれば参加したい 11%
-------------	-----------------

新型コロナウイルス感染症への対応について

十分な対策ができている 63%	必要な対策ができている 37%
-----------------	-----------------



3 講座・講演会

専門分野の最前線で活躍する研究者を講師に迎え、書籍等から得られる知識とは違う知的好奇心の喚起や新たな興味・関心をもつきっかけづくりを目的として講座や講演会を開催しました。また、夏休みには小学生を対象とした「こども学芸員講座」を開催しました。

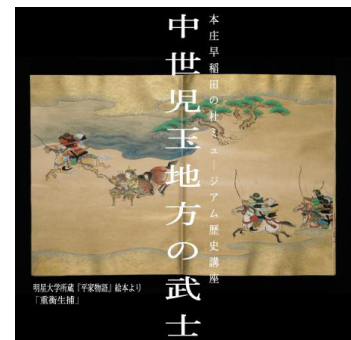
演題等	講師	参加者数
歴史講座 「中世児玉地方の武士」	雉岡 恵一氏（本庄市文化財保護審議会委員）	32名
こども学芸員講座 「これでキミもこども学芸員！ - 考古学のお仕事体験」	ミュージアム学芸員ほか	37名
本庄早稲田の杜ミュージアム開館1周年記念講演会 第1回「邪馬台国 - 『三国志』の中の魏志倭人伝」	渡邊 義浩氏（本庄早稲田の杜ミュージアム名誉館長／早稲田大学理事・文学学術院教授）	182名
第2回「早稲田大学のエジプト調査の歩み」	近藤 二郎氏（早稲田大学文学学術院教授・エジプト学研究所所長）	110名
歴史講座 「古墳の意味を見直す」	坂本 和俊氏（大東文化大学エクステンションセンター講師）	29名
本庄早稲田の杜地域連携展覧会講演会 第1回「大久保山遺跡出土の縄文土器をめぐる諸問題」	細田 勝氏（元早稲田大学考古資料館学芸員）	45名
第2回「神川町の縄文時代」	北山 直人氏（神川町教育委員会生涯学習課）	37名
第3回「深谷市の縄文時代」	平野 哲也氏（深谷市教育委員会文化振興課）	44名
山内清男コレクション受贈記念講演会 「山内清男のサケマス論と縄文社会論 - カリフォルニア・インディアンとの比較 - 」	高橋 龍三郎氏（早稲田大学文学学術院教授）	39名

※肩書は開催日時点

(1) 歴史講座「中世児玉地方の武士」

1 | 概要

本庄市は鎌倉幕府の創設に貢献のあった武士団児玉党の盤踞した地域として知られており、当館においても児玉党関連の資料として、大久保山遺跡・大久保山寺院跡出土遺物を展示しています。一方、近年、文献史学の側からは、承久の乱以降、全国に展開した児玉党系の武士が「元寇」として知られる文禄・弘安の役や南北朝の争乱等においても活躍し、わが国の歴史に少なからぬ影響を及ぼしていることが明らかにされているところです。歴史講座では、長く全国各地の児玉党系武士の動向を研究している雉岡恵一氏を講師にお招きし、近年の研究成果を踏まえ、中世における児玉地方の武士の活躍についてお話しいたしました。



2 | 演題

「中世児玉地方の武士」（全3回）

- 第1回「平安時代から鎌倉時代前半の児玉地方の武士」
- 第2回「鎌倉時代後半から南北朝時代の児玉地方の武士」
- 第3回「室町時代から戦国時代にかけての児玉地方の武士」

3 | 講師 雉岡 恵一氏（本庄市文化財保護審議会委員）

4 | 開催日時

令和3年7月17日（土曜日）・24日（土曜日）・31日（土曜日） 午後1時30分～3時

5 | 会場



早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター 3階 レクチャールーム 1

6 | 費用 無料

7 | 参加者 32名

8 | 参加者アンケートの結果(回答数 27)

どこからお越しですか

市内 93%	市外 7%
--------	-------

今回の講座をどこで知りましたか ※複数回答あり

広報 83%	HP 10%	口コミ 7%
--------	--------	--------

講座の満足度を教えてください

大変満足 37%	満足 37%	普通 15%	やや不満 7%	無回答 4%
----------	--------	--------	---------	--------

講座があったら、また参加したいですか

ぜひ参加したい 70%	都合があれば参加したい 26%	参加したくない 4%
-------------	-----------------	------------

ミュージアムのイベントに参加したことがありますか ある 19% ない 81%

ある 19%	ない 81%
--------	--------

ミュージアムへの来館回数

初めて 26%	2回目 15%	3回以上 56%	無回答 3%
---------	---------	----------	--------

新型コロナウイルス感染症への対応について

十分な対策ができている 41%	必要な対策ができている 56%	不十分 3% (トイレの便座を除菌するものを置いてほしい)
-----------------	-----------------	----------------------------------

(2) こども学芸員講座「これでキミもこども学芸員！ - 考古学のお仕事体験」

1 | 概要

博物館では資料の収集・保管、調査研究、展示公開、教育普及など様々な事業が行われていますが、博物館で働く学芸員の仕事内容については一般に知られていません。今回の講座では、夏休み期間を利用して小学生向けに学芸員の仕事を知ってもらおう内容とし、博物館の存在やその仕事に興味をもってもらうきっかけづくりとするものです。同時期に開催中のミニ企画展「これでキミも考古学者！」を活用しながら、考古学を素材として学芸員の仕事の一つである調査研究の一端を体験し、夏休みの自由研究や自主学習のテーマとしてもらうことで、郷土の歴史や考古学に対する関心を深めてもらう機会とするものです。なお、市民総合大学連携講座も同内容で開催しました。



2 | コース・講座内容

低学年コース (小学校1～3年生)

第1回 考古学入門－発掘って何？

第2回 考古学のお仕事体験

－土器を洗ってみよう・鉛筆で土器の拓本をとってみよう

高学年コース (小学校4～6年生)

第1回 考古学入門－発掘って何？

第2回 考古学のお仕事体験 - 土器を実測してみよう



第3回 考古学のお仕事体験 - 土器の拓本をとってみよう

3 | 開催日時

低学年コース 7月27日(火曜日)・8月3日(火曜日) 全2回

高学年コース 7月29日(木曜日)・8月5日(木曜日)・12日(木曜日) 全3回

市民総合大学連携講座

低学年コース 7月30日(金曜日)・8月6日(金曜日) 全2回

高学年コース 7月28日(水曜日)・8月4日(水曜日)・11日(水曜日) 全3回

いずれも午前10時から12時まで

4 | 会場

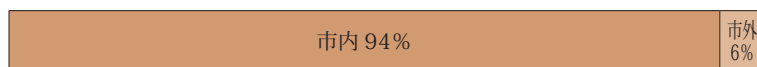
早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター2階 情報資料室・ギャラリーほか

5 | 費用 無料

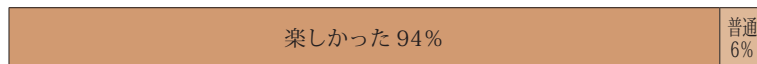
6 | 参加者 計37名

7 | 参加者アンケートの結果(回答数34)

どこから来ましたか



講座は楽しかったですか



また参加したいですか



ミュージアムへの来館回数



(3) 本庄早稲田の杜ミュージアム開館1周年記念講演会

1 | 概要

開館1周年を記念し、三国志など古典中国学が専門で開館からミュージアムの名誉館長を務める渡邊義浩氏とエジプト学、考古学、文化財学が専門でミュージアムの運営委員会委員を務める近藤二郎氏を講師に迎え、講演会を開催しました。

2 | 演題・講師

第1回「邪馬台国-『三国志』の中の魏志倭人伝」

講師 渡邊 義浩氏

(本庄早稲田の杜ミュージアム名誉館長/早稲田大学理事・文学学術院教授)

第2回「早稲田大学のエジプト調査の歩み」

講師 近藤 二郎氏

(早稲田大学文学学術院教授・エジプト学研究所所長)

3 | 開催日時

第1回 令和3年10月9日(土曜日) 午後2時~3時45分

第2回 令和3年10月17日(日曜日) 午後2時~3時45分

4 | 会場 本庄市民文化会館

5 | 費用 無料

6 | 参加者 第1回 182名 第2回 110名 計292名

7 | 関連事業



①特別開館

10月9日（土曜日）・17日（日曜日）のミュージアムの開館時間を午後6時まで延長しました。

②アンケート企画

会場配布したアンケートを記入し、11月14日（日曜日）までにミュージアムに持参した方に、オリジナルクリアファイルをプレゼントしました。



8 | 参加者アンケートの結果（回答数91 ※回収率31%）

どこからお越しですか

市内 81%	市外 19%
--------	--------

今回の講演会をどこで知りましたか ※複数回答あり

広報 53%	館内掲示 14%	HP 12%	チラシ 10%	□□ミ 5%	その他 6%
--------	----------	--------	---------	--------	--------

講演会の満足度を教えてください

大変満足 40%	満足 50%	普通 10%
----------	--------	--------

講演会にまた参加したいですか

ぜひ参加したい 64%	都合があれば参加したい 36%
-------------	-----------------

ミュージアムへの来館回数

初めて 19%	2回目 30%	3回以上 51%
---------	---------	----------

新型コロナウイルス感染症への対応について

十分な対策ができている 52%	必要な対策ができている 45%	◀不十分 1% 無回答 2%	(ワクチン接種のネット予約に対する苦情)
-----------------	-----------------	-------------------	----------------------

(4) 歴史講座「古墳の意味を見直す」

1 | 概要

令和3年10月～12月に開催したミニ企画展「ミュージアム周辺の古墳」の関連講座として開催しました。斬新な視点で東日本の古墳時代研究をリードしてきた坂本和俊氏を講師に迎え、近年の調査研究の成果を踏まえた新たな古墳時代像を語っていただきました。

2 | 演題

「古墳の意味を見直す」(全3回)

第1回「新しい古墳時代像 - 古墳生前築造の視点から - 」

第2回「カマド文化の周辺」

第3回「夫婦別姓から古墳時代を考える - 同一墳に埋葬されなかった夫婦 - 」

3 | 講師 坂本 和俊 氏 (大東文化大学エクステンションセンター講師)

4 | 開催日時

令和3年12月4日（土曜日）・11日（土曜日）・18日（土曜日）

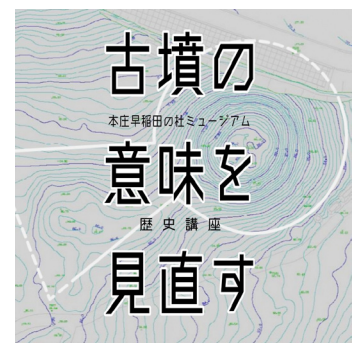
午後1時30分～3時

5 | 会場

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター3階

レクチャールーム1

6 | 費用 無料



7 | 参加者 29名

8 | 参加者アンケートの結果 (回答数 21)

どこからお越しですか

市内 76%	市外 24%
--------	--------

今回の講座をどこで知りましたか ※複数回答あり

広報 55%	HP 27%	口コミ 13%	SNS 5%
--------	--------	---------	--------

講座の満足度を教えてください

大変満足 52%	満足 43%	◀やや不満 5%
----------	--------	----------

イベントがあったら、また参加したいですか

ぜひ参加したい 90%	◀都合があれば参加したい 10%
-------------	------------------

ミュージアムのイベントに参加したことがありますか

ある 67%	ない 33%
--------	--------

ミュージアムへの来館回数

初めて 9%	◀ 2回目 5%	3回以上 86%
--------	----------	----------

新型コロナウイルス感染症への対応について

十分な対策ができている 52%	必要な対策ができている 43%	◀不十分 5% (理由不明)
-----------------	-----------------	----------------

(5) 本庄早稲田の杜地域連携展覧会講演会

1 | 概要

令和4年1月～3月に開催した本庄早稲田の杜地域連携展覧会「旧石器・縄文時代の児玉・深谷地域」の関連講演会として開催しました。

2 | 演題・講師

第1回「大久保山遺跡出土の縄文土器をめぐる諸問題」

講師 細田 勝氏 (元早稲田大学考古資料館学芸員)

第2回「神川町の縄文時代」

講師 北山 直人氏 (神川町教育委員会生涯学習課)

第3回「深谷市の縄文時代」

講師 平野 哲也氏 (深谷市教育委員会文化振興課)

3 | 開催日時

令和4年1月29日 (土曜日)・2月5日 (土曜日)・12日 (土曜日)

午後2時～3時30分

4 | 会場

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター 3階

レクチャールーム 1

5 | 費用 無料

6 | 参加者 第1回 45名 第2回 37名 第3回 44名 計 126名

7 | 参加者アンケートの結果 (回答数 111)

どこからお越しですか



市内 42%	市外 58%
--------	--------

今回の講演会をどこで知りましたか ※複数回答あり

広報 60%	HP22%	口コミ 11%	SNS2%・その他 5%
--------	-------	---------	--------------

講演会の満足度を教えてください

大変満足 42%	満足 43%	普通 8%	やや不満 3% 無回答 4%
----------	--------	-------	-------------------

講演会があったら、また参加したいですか

ぜひ参加したい 73%	都合があれば参加したい 27%
-------------	-----------------

ミュージアムのイベントに参加したことがありますか

ある 51%	ない 49%
--------	--------

ミュージアムへの来館回数

初めて 12%	2回目 18%	3回以上 70%
---------	---------	----------

新型コロナウイルス感染症への対応について

十分な対策ができている 55%	必要な対策ができている 43%	不十分 1% (検温方法が非効率) 無回答 1%
-----------------	-----------------	-----------------------------

(6) 山内清男コレクション受贈記念講演会

1 | 概要

令和3年12月から開催中の「山内清男の考古学」の関連講演会として開催しました。パプアニューギニアの民族誌調査や縄文時代の社会構造を研究するなど、先史考古学を牽引する高橋龍三郎氏を講師に迎え、山内清男が提唱した「サケマス論」から縄文社会の実態に迫りました。

2 | 演題

「山内清男のサケマス論と縄文社会論 - カリフォルニア・インディアンとの比較 - 」

3 | 講師 高橋 龍三郎氏 (早稲田大学文学学術院教授)

4 | 開催日時

令和4年3月21日(月曜日/祝日) 午後2時~3時30分

5 | 会場

早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター 3階
レクチャールーム1

6 | 費用 無料

7 | 参加者 39名

8 | 参加者アンケートの結果(回答数 32)

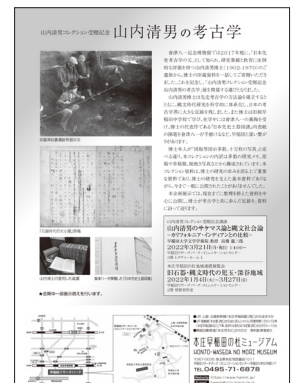
どこからお越しですか

市内 38%	市外 62%
--------	--------

今回の講演会をどこで知りましたか ※複数回答あり

広報 28%	企画展チラシ 23%	HP14%	口コミ 14%	館内掲示等 12%	SNS3%・その他 6%
--------	------------	-------	---------	-----------	--------------

講演会の満足度を教えてください





講演会があったら、また参加したいですか



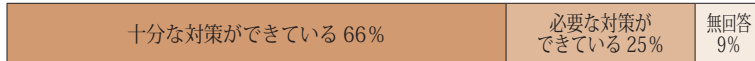
ミュージアムのイベントに参加したことがありますか



ミュージアムへの来館回数



新型コロナウイルス感染症への対応について



IV 博学連携事業

1 博学連携事業

平成29年度告示の学習指導要領では、学校教育における博物館の利用を積極的に進めることがうたわれており、当館を郷土学習の拠点として、学校団体の積極的な受け入れをはじめ、令和3年7月からは本庄市立小・中学校を対象に見学用バスを運行するなど、来館の推進を図りました。

(1) 校外学習 - そうだ！ミュージアムに行こう

展示室の見学とワークショップ・フィールドワークを組み合わせた博学連携プログラムを実施しました。

展示室見学では、学芸員のガイドで展示室内を見学しました。内容は、「埴輪の世界」「本庄の歩み」「企画展示（早稲田大学展示室・交流ひろば等）」の3展示エリアの見学と自由見学を組み合わせ、学習目的に合わせて決定しています。令和3年7月からは、感染症対策及び見学環境改善を図るためワイヤレス送受信機の運用を開始しました。

ワークショップ・フィールドワークでは、本庄の歴史や展示物をより深く知るためのプログラムとして、市内の遺跡から出土した本物の土器や埴輪に直接触れる体験（ハンズオン）や拓本体験、勾玉や埴輪づくり、史跡めぐりを実施しました。



来館状況		
令和2年度		
市内小学校	4校	379名

令和3年度		
市内小学校	9校	939名
市外小学校	2校	151名
市外中学校	1校	4名

ワークショップ等実施状況		
令和2年度		
ハンズオン	4校	379名

令和3年度		
ハンズオン	9校	824名
勾玉づくり	8校	666名
拓本体験	3校	133名
埴輪づくり	1校	51名
史跡めぐり	2校	139名

(2) 出前授業 - 教室にミュージアムをお届け

学校では、校外学習の機会は限られており、学習の進捗に合わせての来館が難しい場合も多くあります。出前授業では、当館から実物資料を学校に持ち込むことで、教室をミニミュージアム化し、学芸員が解説を行うことで、児童が学習内容をより実感的に理解できるよう実施しました。



実施状況	
藤田小6年生（22名）	1回目 ハンズオン／2回目 埴輪づくり
本庄東小5年生（120名）	ハンズオン・埴輪づくり

2 早稲田大学本庄高等学院との連携事業

ミュージアムでは、同じ早稲田大学本庄キャンパス内に立地する早稲田大学本庄高等学院との連携事業を実施しています。学芸員や教員を志望する学院生をはじめ、人に何かを伝えたり教えたりする仕事やミュージアムの事業に関心のある学院生を対象として、令和3年度は講座やワークショップの運営補助業務を体験するプログラムを実施しました。キャリア学習の一環として活動の場を提供するとともに、博学連携事業の充実を図っています。

参加者 21名



V その他の事業

1 開館記念事業

(1) 内覧会

- 1 | 開催日時 令和2年10月11日(日曜日)・12日(月曜日)・13日(火曜日)
午前9時～午後4時30分

- 2 | 招待者 約150名

(2) オープニングセレモニー

- 1 | 開催日時 令和2年10月15日(木曜日) 午後1時～

- 2 | 会場 本庄早稲田の杜ミュージアム
早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター

- 3 | 出席者 46名

(3) 一般公開

- 1 | 日時 令和2年10月15日(木曜日) 午後3時～

2 | 関連イベント

- ①特別開館 開館日当日の開館時間を午後7時まで延長しました
②記念品配布 15日(木曜日)～18日(日曜日)の4日間、各日先着100名(合計400名)に開館記念品として、オリジナルポストカードとシールのセットを配布しました。



2 来館者1万人達成記念事業

(1) 来館者1万人達成イベント

- 1 | 開催日 令和3年4月11日(日曜日)

2 | フォトセッション

来館1万人目となった熊谷市在住の親子に記念品を贈呈し、記念撮影を行いました。

3 | 記念品配布

達成時に在館中及び達成後の同日中の来館者に記念品として、オリジナルポストカードとシールのセットを配布しました。



3 開館1周年記念事業

- (1) 企画展 令和3年9月～11月に「大隈重信と渋沢栄一展」を開催しました。

- (2) 講演会 令和3年10月9日(土曜日)に渡邊義浩氏(本庄早稲田の杜ミュージアム名誉館長/早稲田大学理事・文学学術院教授)、10月17日(日曜日)に近藤二郎氏(早稲田大学文学学術院教授・エジプト学研究所所長)を講師に迎え、講演会を開催しました。

VI 資料活用

1 館外特別利用

令和2年度

資料名	点数	貸出先	使用目的
三空山8号墳出土盾持人物埴輪頭部・埴輪片	5点	埼玉県立さきたま史跡の博物館	令和2年度企画展「盾持人埴輪の世界」の中で展示するため
薬師堂東遺跡出土品	17点	埼玉県立さきたま史跡の博物館	令和2年度最新出土品展「地中からのメッセージ」の中で展示するため
薬師堂東遺跡発掘調査写真・図版	4点		

2 特別利用

令和2年度

資料名	点数	使用目的
九郷用水史料	2点	古文書輪読会
小島坊主山古墳出土鏃	一括	調査研究のため

令和3年度

資料名	点数	使用目的
金鑽神社古墳出土埴輪	59点	調査研究のため
笠ヶ谷戸遺跡出土土師器	39点	調査研究のため
本庄城跡出土土師器		
元禄元年検地帳	2点	古文書勉強会に使用するため
座繰り	4点	調査研究のため
唐草文軒平瓦（大久保山遺跡出土）	1点	資料撮影のため
唐草文軒平瓦（真鏡後遺跡出土）	1点	
唐草文軒平瓦（羽根倉南遺跡出土）	1点	
唐草文軒丸瓦（久下前遺跡出土）	1点	
三鱗文平瓦（大久保山寺院跡出土）	1点	

VII 資料収集

1 新収蔵資料

令和2年度

資料名	点数	
長谷川家資料	2,276点	寄贈
古銭	72点	寄贈
渋沢市郎右衛門書簡	1点	寄贈
諸井邸実測調査図面集	1部	寄贈

令和3年度

資料名	点数	
諸井家資料	66点	寄贈
唐箕・米麦貯蔵器・俵口ほか	5点	寄贈
儀仗用サーベル	1振	寄贈
本庄新聞1～37号	37部	寄贈

VIII 情報発信・広報等

1 情報発信・広報

市広報や公式ホームページ、インスタグラムを通じて、ミュージアムの展覧会やワークショップ等の開催情報をはじめ、本庄市の歴史や文化財施設に関する情報等を広く情報発信しています。

(1) 公式ホームページ

- 1 | ページ URL <https://www.hwmm.jp/>
 2 | 開設日 令和2年10月15日

(2) インスタグラム

- 1 | アカウント名 honjo_bunkazai
 2 | ページ URL https://instagram.com/honjo_bunkazai
 3 | 開設日 令和3年2月1日
 4 | 投稿数 166 (開設～令和4年3月31日)
 5 | フォロワー数 615 ※令和4年3月31日時点

2 刊行物

調査研究報告 1

[論文] 児玉地域における古墳時代前期の土器様相 (上)

- 女堀川・旧赤根川流域の古墳時代前期の土器の分析を中心として - / 松本 完

[研究ノート] 「刺羽」と翳形埴輪 / 太田 博之

3 ミュージアムショップ

ミュージアムでは、来館者サービスの一環としてミュージアムショップを併設し、常設展示図録をはじめ、当館のオリジナルグッズ等を販売しています。

販売実績		
令和2年度		
ミュージアムオリジナルグッズ	1,759点	355,950円
文化財保護課刊行物	269点	134,500円
その他	255点	124,800円
令和3年度		
ミュージアムオリジナルグッズ	2,301点	449,700円
文化財保護課刊行物	333点	169,500円
その他	322点	173,000円

IX 本庄早稲田の杜ミュージアム運営委員会

本庄早稲田の杜ミュージアム運営委員会は、本庄早稲田の杜ミュージアムの設置及び管理に関する条例第 14 条に基づき、ミュージアムの円滑な運営を図るため、教育委員会の附属機関として設置されています。委員会は、学校教育の関係者、社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者及び学識経験のある者からなる 10 名以内の委員によって組織され、任期は 2 年です。

1 運営委員会委員

任 期 令和 2 年 10 月 15 日から令和 4 年 10 月 14 日まで

委員名簿	委員 長	佐々木 正峰	元文化庁長官
	副委員長	近藤 二郎	早稲田大学文学学術院教授
	委 員	芦沢 吉一	心豊かな子どもの育つふるさとづくりの会会長
	委 員	案浦 久仁子	埼玉県教育局市町村支援部文化資源課課長（令和 3 年 3 月 31 日退任）
	委 員	内田 英亮	本庄市社会教育委員
	委 員	衛藤 一憲	埼玉県教育局市町村支援部文化資源課課長（令和 3 年 6 月 1 日就任）
	委 員	栗原 完	本庄市教育委員会事務局学校教育課指導主事
	委 員	柴崎 起三雄	本庄市文化財保護審議会委員長
	委 員	下野戸 陽子	本庄市立本庄南小学校校長
	委 員	谷田 裕之	本庄市 P T A 連合会元会長
	委 員	根岸 久	本庄市文化財保護審議会副委員長

※敬称省略 ※肩書は就任当時

2 運営委員会

1 | 第 1 回本庄早稲田の杜ミュージアム運営委員会

開催日時 令和 2 年 10 月 15 日（木曜日）午後 2 時 30 分～午後 3 時 15 分

開催場所 早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター S401 会議室

出席者（委員）案浦委員、内田委員、栗原委員、近藤委員、佐々木委員、柴崎委員、下野戸委員、
谷田委員、根岸委員
吉田市長、渡邊名誉館長

（事務局）勝山教育長、高橋事務局長、佐々木課長、久米主査

欠席者（委員）芦沢委員

会議内容 委嘱状交付

委員長・副委員長選出

議事 ①令和 2 年度の活動について

②その他

2 | 第 2 回本庄早稲田の杜ミュージアム運営委員会

開催日時 令和 3 年 3 月 26 日（金曜日）※書面開催

出席者（委員）芦沢委員、案浦委員、内田委員、栗原委員、近藤委員、佐々木委員、柴崎委員、
下野戸委員、谷田委員、根岸委員

会議内容 議事 ①令和 2 年度 事業報告

②令和 3 年度 事業計画

本庄早稲田の杜ミュージアム年報
- 令和2年度・令和3年度 -

令和4年5月30日印刷
令和4年5月31日発行

編集・発行 本庄早稲田の杜ミュージアム
〒367-0035 埼玉県本庄市西富田1011
TEL 0495-71-6878 FAX 0495-71-6879
E-mail hwmm@city.honjo.lg.jp

本庄早稲田の杜
HONTO-WASEDA NO MORI MUSEUM
ミュージアム